

## 第8回境港市民交流センター（仮称）管理運営計画検討委員会 議事録（要旨）

日 時：平成31年2月13日（水）午後1時30分～2時50分

場 所：境港商工会議所 1階 展示室

### 出席者 【委員会委員】

野田委員長、池淵（美津子）副委員長、増谷委員、三好委員、松本委員、  
新和委員、湯越委員、山本委員

（欠席：池淵（朗拡）委員、足立委員、安田委員、山田委員）

### 【アドバイザー】

小林アドバイザー、田中アドバイザー

### 【事務局】

松本教育長、黒崎生涯学習課長、浜田生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長、  
北野生涯学習課課長補佐、園山建築営繕課課長補佐、竹内生涯学習課文化  
体育係長、

### < 次 第 >

#### 1. 開 会

#### 2. 議事

（1）前回（第7回）検討委員会からの修正案について

（2）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の収支計画（案）について

（3）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の開館準備計画（案）について

（4）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画（案）について

#### 3. その他

#### 4. 閉会

<会議録（要旨）>

◆次第1は省略

◆次第2 議事について

（1）前回（第7回）検討委員会からの修正案について

○事務局から説明（資料P 1～8）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

只今の修正箇所、赤字のところと、それから補足、課長の方からもありましたけど、自衛隊員との交流という風にまとめていきたいというのが追加です。これらについて、ご意見があればご発言ください。

◇（委員）

何回も議論を重ねたおかげで、各箇所が出来上がってきたなあと思います。2ページの図書交流広場の⑧に移動図書館車を入れていただいていたことにありがとうございます。準備期間が3年間ありますので、1年ずつ走らせる場を広げていただいていたかなと思います。前は人が集まるふれあいの家とかに持って行ったらどうだろうかという提案をしたんですが、4月からでも手っ取り早くできる方法が、この間新聞の記事を見て思ったんですけども、保健相談センターが健康づくりサポーターが後押しするという介護予防の会をしていますが、健康関係の本とかを持って行って職員の人と一緒に出前の図書館をしたらいんじゃないかなと思いました。防災の講習や福祉課のイベントにも、市の職員と一緒にやれば人が足りない、人が足りないじゃなくて、市の職員とみんなと一緒にやればいいかなと思います。よく県立図書館が県立図書館の出前っていうので、この間もガイナレの試合会場に図書館の本を持って行ってという例もありますし、この方法から始めたらもっと簡単に出来るんじゃないかなと思いました。でも職員の方を巻き込むのに、一度市長さんをはじめ、市の全職員に図書館が町おこしの核になるっていうような講演会を開いて聞いていただくと、協力もスムーズにいくと思いますので、市の職員の方々と一緒に聞く講演会を一度していただけたらいいかなと思います。講師は県立図書館の小林さんをお願いすると大丈夫だと思います。

◇（委員長）

只今の意見は、移動図書館の実際のやり方についてのご意見かなと思います。検討していただければと思います。この点も含めまして全体に対して何か他にございませんか。皆様のご指摘が反映されていますので、大分良くなっているとは思いますが、根本的なところでの意見の対立というのはだんだん解消されていると思いますので、恐らくその上で細かいところで何かございましたらご指摘いただければと思

います。よろしいですかね。それではこの修正案のところについては了解ということで進めます。では続きまして（２）管理運営計画の収支計画案について、９、１０、１１ページについて、ご説明をお願いいたします。

（２）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の収支計画（案）について

○事務局から説明（資料P 9～11）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

只今ですね、収支について基本的な考え方と収入、支出においてどういう項目があるか、それから収支がどういう風になっていくだろうかということを図式しながら、額が入ってませんけれど、今、課長から補足がありましたように大体市民会館の指定管理料が3,000万円くらいで図書館が2,500万円くらい、これより下回ることはないと思いますが、職員の身分をどうするかだとか、こういうことが関わってくると思います。只今の収支について、ご質問とかご意見、ありましたらお願いします。

◇（委員）

９ページの財源確保の方法として、外部から資金調達を行うなどと書いてありますが、現時点で具体的な候補とかありますか。それから支出の方で①事業費の内容について、例えば何々とかいう書き方をしていないですが、具体的に何々と何々が事業費ですよということを教えていただければなと思います。

⇒（事務局）

外部からの助成金や協賛金などについてですが、すみません、代表的なところは出てこないのですが、例えば国の財団とか、文化事業に対して補助金を出している団体がございます。そこに申請をして審査を通過して許可が出れば補助金が出るという形になっております。次に支出の方の事業費でございます。主催事業等にかかる経費と言うと、例えばアーティストを呼ぶ場合には出演料がかかりますし、宣伝とか、そういうイベントをやる際にかかる経費、人を呼んだり、広報宣伝にかかる経費などをまとめて事業費ということで書かしていただいております。

◇（委員長）

補足ですけど、収入のところ助成金、協賛金とありますけど、助成金は今説明がありましたように、国の財団、直接文化庁もありますし、協賛金というのは企業協賛ということも想定されます。スポンサーから事業によっていくらかのお金が入ってくるということもあると思います。よろしいでしょうか。

◇（委員）

収入のところですけども、寄附行為などはどういう扱いになるのかなと思います。例えばふるさと納税とかそういうのにあたって文化事業とかそういうものへ対しての特定された納税の形をとれるならば、ある程度の財源の一部となり得るんじゃないかなと思うんですが、それ以外にもこの開館にあたって寄附をしようとか、寄附を常時受け付けるというような窓口とか、そういうような何かものというか考えてはございませんでしょうか。

⇒（事務局）

ふるさと納税については市が受け取るような形になります。指定寄附の場合だったらそれに対する事業の財源として充てるような形になるので、指定管理者に直接入るということではありません。市から出すお金についての財源に充てるのかなという風に思います。個人の方からの寄附も市にされるのか指定管理者にされるのかによって、指定管理者にされる場合は、収入として受けて、そういう事業に充てればいいのかと思いますので、ここには書いてないですが収入にあたると思っております。先ほどのふるさと納税の関係の市が受けた場合でも、そういう事業をやるということになれば市が指定管理料とは別に補助金として事業をやるので、その財源に充てるということとはできると思っております。

◇（委員）

さっき説明で図書館の職員の身分の説明がありましたので、是非とも要望ですけども、館長さん以下全て嘱託の身分でずっと来ていますので、正職員にしていただきたいというのは要望です。鳥取県下でも館長さんが嘱託というのは多分境港を含めて3ヶ所くらいしかありません。嘱託であると決議権もないので、何も言えないという風に代々の館長さんが言うておられますし、図書館運営が本当にプロの立場として中々上手くいきませんので、まずは館長さんを正職員にしていただきたいです。出来たら行政の中でも司書の資格を持っている方がいると聞きましたので、行政と図書館とのパイプ役ということで図書館に配置していただきたいですし、やっぱり専門職である司書の方も追々正職員化していただけたらいいなと思います。大変でしょうけれど、まずは人がいないからというのは、教育委員会が決めるのではなくて総務課が最終的には決められることなので、教育委員会がそういう熱い思いで、これは絶対にこうこうこういう理由で絶対獲得しなければならぬという熱い思いでぶつかっていただけたらと思います。

◇（委員長）

今のは要望ということで、ご発言だったかと思います。これは前向きに検討していただければと思います。その他。

◇（委員）

この交流センターに自治防災課、それから社会福祉協議会が入るという風に伺っていますが、自治防災課は市の組織でありますので、これは場所が変わるだけだということで別に問題はないと思うのですが、社会福祉協議会、別途の組織でありますけど、これはこの交流センターを使うということは使用料というのはいかかってくるのですか。

⇒（事務局）

具体的には詰めてないんですけど、前回の時に、管理運営体制のところでは社会福祉協議会さんが入る時には、市有財産貸付契約になるのかなと思っております。事務室の使用料がいくらになるのかというのは今後話していくことになると思いますし、他の会議室とかの利用料についても、社協さんが使われる場合にはどうしていくのかというのを内部で協議していかないといけないと思っています。他の団体が使う場合は普通に使用料がかかると思うんですけど、社協さんが社協の会を開くときにどうなるのかというのはちょっと協議していかないといけないと、その様に考えております。

◇（委員）

会議室とか結構使われると思いますので、会議があったり、高齢者の体操があったり、色々なことをやっておられますから、それがみんなそういう部屋を使っていくということになりますので、社協さんが入る事務室とは別に結構使われることがあると思いますのでそれがどうなるのかなと、社協さんも財源的には結構厳しいと思うので、大変なのは大変かなと危惧しているところです。

⇒（事務局）

前回も社協さんが今の場所で色々会議とかを定期的にされているので、実際に新しい施設になった場合に他のところと競合するんじゃないかみたいな話もありましたので、そういう場合にどうするのかとか、日頃結構頻繁に使われる場合に使用料をどうするのかというところはちょっと考えていかないといけないという風には感じておりますので、今後の検討課題なのかなと思っております。

◇（委員）

7ページにサポータークラブを入れていただいたんですが、サポータークラブは2種類あると思います。1つはここに書いてあるような図書の整理とか修復とか紙面の整理とかの図書館のお手伝いで、もう1種類は、図書館の運営とか協力とか提言をするような形、市民の図書館であり続けるために守って育てていきたい市民のグループっていう、それもサポータークラブの1つだと思います。このような大切な図書館に心を寄せて守って図書館と一緒にやっていくような会は全国的にも沢山あるんですけど、1つは図書館友の会というのがあります。一番近くでは米子に図書館友の会米子

があるんですが、有名なところでは佐賀県の図書館フレンズいまりっっていうのがあって、色々な図書館運営に関わっていています。前回、小林さんが図書館グッズの販売をやってみてはどうかとおっしゃっていたんですが、直営の場合は図書館が売買はできないので、例えば、手作りグッズやカバーとかマグカップとかそういう販売は図書館フレンズいまりがされています。ですから図書館の中でそういった販売をされるんですけど、グッズのことを考えるとそういう友の会的な運営をサポートするっていうことでもありますので、「図書交流広場運営支援」は、図書の整理、修復等だけじゃないので、この括弧は取った方がいいのかなと思います。まだ境港も市民の人たちからもっともっと図書館のことを勉強して図書館をサポートしていこうというのがまだ立ち上がっていないので、ここには書けないんですけど、そういう会が出来るといいかなと思っています。もし書いた方がいいと言われるなら、お手伝いとか協力とか、何がいいかなと思ってちょっと分からないですけど、ちょっとそのように思いました。

⇒（事務局）

今、ご意見をいただいたところなんですけれど、一応事務局としましても、括弧で書いているところは、代表的な、今のところ思い浮かぶところで、図書の整理、修復で、「等」をつけております。これだけということ載せているわけではなくて、代表的なものを載せて、先ほど山本委員さんが言われた部分も検討していけるように幅広く「等」を付けているという認識ですので、取った方がよければ取りますけれども、代表的な例を載せておいた方が分かりやすいのかなと思って載せております。

◇（委員長）

私もそれ感じるんですけど、これだけを書いちゃうと何か労力的なとこだけ手伝ってねってみたいに読めちゃうので、それは1つあるけれども、もう1つ今のご指摘は運営そのものに市民が直接参加していくということなので、入れるんだったらそれも入れるか、取っちゃうかっていうのでちょっと検討していただければと思います。そういう誤解を受けるかなと思いますので。他にございますでしょうか。収支のところはよろしいでしょうか。11ページに大体こういう感じで、こういう項目がありますよっていうのが図式してありますので、見ていただければと思います。指定管理料が凄くでかいですね。よろしいですか。それでは議題2はこれで終わります、3番目の管理運営計画の開館準備計画案について、12ページですね、説明をお願いします。

（3）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の開館準備計画（案）について  
○事務局から説明（資料P12）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

### <委員長>

今度は開館までに何をやるかっていうこと、大きな柱について、その基本的な考え方を整理していくものです。あれ抜けてるよとか、これおかしいんじゃないかなどどんなご意見でも結構ですから、何かございましたらご発言ください。

### ◇（委員）

ここに第1回市民ワークショップのチラシがあるんですが、私はちょっと残念ながら参加できなかったんですが、代わりに出ていただいた方にお話を聞きますと、やはり今現在活動している色んな団体に限らず、色んな団体がある、そういう人たちのもっと意見というか、そういうのを拾い上げることがやはり大事なかなという話をしました。それで細かい準備計画が出来るわけですから、こういう方針でいきますよということがある程度市民に向けて発信できるようになりました。そうするとこれを各団体へ全て配って、あらましを、スケジュールとかそういう必要なものを1つの広報紙のような形で小さな冊子にでもして各団体に配布した上で、自分たちがいざ使ったらどういう風になるかというイメージを持っていただくとか、それによってどういう風にしたら自分たちにとっていいだろうかということが何となくだんだんと具体的に見えてきているように感じますので、今の段階でこういうことを少しずつ進めていくことによって、中々ワークショップで人が集まるということは難しいですけど、こっちからどんどん働きかけてお茶でも飲みながらグループで話してもらおうような形で吸い上げていくというようなものもどんどんしていただけたら、より市民に対して、それこそ高揚感と言うんですか、自分たちのセンターだという意識が湧いてくるんじゃないかなという感じがしています。そういうこともちょっと考慮に入れていただけたらと思います。

### ◇（委員長）

とても大事な観点かなと思います。私もワークショップ出ましたけど、図書館の関係の活動している方ばかりで、ホールの方は全然来ないんですね。今のご指摘の部分、これまで利用していた団体に直接文章を送るとか、或いは文化協会っていうのはどうですかね。文化協会から色々情報を提供してもらおうとか出来るんですかね。

### ◇（委員）

私もそう思います。例えば色々項目がありますが、1番大事なことはみんなでの交流センターを盛り上げるっていうような形が大事だと思います。今委員が提言されたことはすごい大事だと思いますし、やっぱりこの形だけで行ってしまうと、本当に型通りのことだけになってしまって結局文化協会の会員も知らない、普段利用している人も結局イベントがあるんだなということしかわからないような形になってしまうと思います。ですからせめて文化協会を含めて文化活動をされている方、境港に

各団体おられるので、その辺りには必ず情報発信していただいて、出来ればワークショップまでとは言いませんけれど、ある程度ソフトに関しての意見交換をしたらいいと思いました。

◇（委員長）

ワークショップをやって、使って来られた団体の方々に使い勝手どうってところを言ってもらくと、色々出てくると思います。あそこはちょっと問題がある、ここはこうした方がいいとか、そういうのをきめ細やかに拾っていくのはとても大事じゃないかなと思います。それは開館前にやればいいと思います。

◇（委員）

皆さんから意見が出たら代表の人はワークショップに出ざるを得なくなる、それを言わないといけなくなりますから。

◇（委員）

やはりする前にしていかないと、オープンしてから慌てても遅いと思います。

◇（委員長）

他人事、他所事にならないためには、ここが大事ですよ。自分たちの施設なんだというそういう思いを持って、またさせることが大事で、行政にとっても市民の方々が運営に関わって来てくだされば、とってもありがたいし、おまけに助かることがあると思うんですね。

◇（委員）

そうすれば自分たちが関わっているということになると思いますので、今の状態で行けば教育委員会の生涯学習課がやっているという感じ、この間のワークショップに行くと強く感じたんですが、それでは中々出来た時の高揚感がないと思います。

◇（委員長）

例えば文化協会が集まりが年に1回あるとかそういうことがありますか。

◇（委員）

一応総会をやって、展示とか演劇とか、ステージに分かれてやっているところもあります。ちょっと把握は出来ないんですけど、各団体で独自に、合唱連盟とかは独自にやっていますから、そういう団体もあります。その辺りをもう少し把握した方がいいと思います。

◇（委員長）

まだ作成されていませんけれど、広報宣伝のスケジュールのペーパーが1枚あった方がいいと思います。SNSをいつ開設するとか、ホームページをいつ作るとか、それから今ご指摘の今まで利用している団体やサークルに対してのアプローチを何時頃から、具体的に何をやっていくのかという、恐らくこれがもう4月から出来ると思いますので、是非、そこがオープン以降、どういう施設になるのか決める非常に大事なところ、図書館は割と受け身というか、完成したら本があってシステムが出来上がっていますからいいんですけど、ホールってそうじゃないですよ。だからホールの方は自分たちのステージだという風に思っていたくように前々から、早すぎることはないと思うので、4月から是非、そこは重要なところだと思います。

◇（委員）

色々な文化団体だけじゃなくて、色々な団体があります。子どもさんを集めてやる方もあれば、小さな団体、それをいっぱい増やすといいと思います。

◇（委員長）

あまり文化団体って決めつけない方がいいですね。

◇（委員）

スポーツ団体も有りますし、色々あると思います。

◇（委員）

子どもたちはこれから長い時間使っていくようになると思いますので、やっぱり子どもたちにとって、もしかしたら子どもたちがその施設で働くかもしれないし、そういったこともあると思います。

◇（委員長）

逆に学校に出張ってって、授業時間をもらってこんな出来るんだよ、みんな使おうよみたいなこともいいと思います。

◇（委員）

P T Aで協力できることがあれば、早めに声をかけていきたいと思います。

◇（委員長）

これもワークショップでも言ったんですけど、今、仮囲いが取れてますけど、また建設になったら仮囲いが出来るんですけど、そこにこんなのが出来ますとか、市民の子どもが書いた絵でもいいので、こんなのが出来たらいいねってみたいな、仮囲い自

体が1つのメディアボードみたいになって、宣伝になっていくというのも考えられます。どうしても市がやっていると他人事、他所事になりがちなので、せっかく沢山の費用をかけて作るわけですから、是非、未来永劫、市民の財産としないといけないと思います。

◇（委員）

福祉とか色々、ここに入ってきますので、その団体が凄く頼りなく思うので、そういう時に文化だけではなくて、PTAさんも含めて、やっぱり全体的にホール、施設、会議室、図書館含めて、そういう風に話せる格好にしといた方がいいと思います。

◇（委員長）

一般的に施設が出来たら、その年は人が珍しくて沢山来るんだけど、2年目からはガクンと落ちてくるパターンが多いんですね。最初に来て中々いいんじゃないのと、じゃあ使おうねとなると、2回、3回と継続していくので、やっぱり最初が大事だと思います。是非、事務局もその点は早いうちに、4月以降はもうPRが始まるんだみたいな、これが固まったら広報活動をやっていただいて、特に若い高校生、小中学生含めて、PRしていただきたいと思います。他にありますか。

◇（委員）

2番目のイベントの開催ですが、前回、小林さんもイベントの開催は市民の高揚を高めるためにもいいんじゃないかなっておっしゃってましたし、市民の皆さんが本当に交流センター、図書館が新しくなることをとっても楽しみに待っていらっしゃいますので、このイベントが1回で終わらずに、例えば3年前イベントとか、2年前イベントとか、1年前とかっていう風に、少しずつやっていくと何か楽しみも増すんじゃないかと思います。このイベントの内容について、是非とも例えば高校生のダンスとか、小学生の何とか、そういう世代を超えて色々な人達に参加できるようなイベントをしていただくと自分たちも参加した交流センターが出来るとあっていうのがすごく楽しみになるんじゃないかなと思います。明後日、高校生のワークショップがあるそうですけれど、俺たちが考えた、参加した交流センターが出来るとあっていうので、余計そういうのにまたイベントに参加できるとなるとまた楽しみも違うんじゃないかなと思います。ワークショップのチラシをこれ今回どういところに配られたでしょうか。こんな風にイラストを沢山入れて、3年前イベントしますとか、こういう楽しい感じのチラシを色々な市報とか公民館とか人が集まるようなところに沢山置かれて、もう2年前になったのかとか、そういう意味でのチラシも効果があるのかなと思いました。

⇒（事務局）

チラシは公民館とか市役所とかぐらいしか置いていません。今までのワークショップは関係者に文書で郵送してまして、今回、それをしていません。それで純然に市報を見て来られた方は2人だけだったと思います。後は関係者の方で、事前にこういうイベントがあると分かっていた方、委員も含めてだったと思います。全く案内してなくて来られた方は2人だけだったと思います。今までは40、50名くらいは、文化関係とかそういった関係者の方には案内して来ていただいていたというのが実態で、何にもしないでこれぐらいのことになるのかなというのが改めて思った次第です。それとプレイベントの関係で、3年前、2年前と言われたんですけど、基本的に施設が出来ないとプレイベントは難しいのかなっていうのがありますので、その辺りはご了解いただければと思います。

◇（委員長）

関連で、私の経験からしても市の立場でこういう施設を作る時、膨大な業務量がどっと来るんですね。そうするとプレイベントって飛んじゃう可能性があるんですよ。だから忙しくなったら、対応でものすごく、議会とかマスコミとか要望とかで色々大変になるので、理想を言えばプレイベントを市民組織みたいなものを作って、そういうのに任せたりね、ガイドラインだけ作って予算も若干少し用意して、その人たちが例えば高校生バージョンとか、高齢者バージョンとか、何か1回やるということで、気が付いたらそれがサポータークラブになったみたいな、そういう仕掛けがあるといいんじゃないかなと思います。もう1回繰り返しますけど、市の職員は本当に大変になるんですよ。私もみなとみらいホールっていうコンサートホールを作ったことありますけど、毎日午前様でした。で業務のピーク過ぎたら人が相当付くんですよ。だから大変なんです。ここにいくつか開館の前にやることが書いてある、この100倍位出てきますから。本当に大変なんです。

◇（委員）

私も1つ、プレイベントについて1つ提案なんですけど、今境港市で色々やっている発表会にしる何にしる、文化的にしるスポーツ関係にしる、そういう今あるものに対して、冠として「市民交流センター開館プレイベント」というのを常に付けると非常に簡単だと思うんですよ。どの催しにも将来交流センターを使って欲しいという気持ちを込めてまたプレイベントという冠を付けるっていうのはどうかなという風に思います。現在ある事業は、各団体がやっていることは多分今で手一杯な感じがするんですよ。ですから新たにそれが集まって、文化協会も大変だということを実感しておられると思いますけど、中々高齢化しているっていうことでもありますけど大変なので、今あることにそういう冠を付けながら市民の目にどんどん触れさせると、触れて進めるというのはどうかななんてちょっと勝手に考えたところでしたけど、ちょっと考慮

していただけたらと思います。

◇（委員）

すごく最高のアイデアだと思いました。是非ともそこを進めていただけたらいいと思います。私も言うは易し、何かちょっと申し訳なかったかなと思ったんですけど、せめてこういうイラスト入りのチラシを、イベントまでしなくても3年前です、2年前ですとかいう風に市報とか色々な場所に置いていただくだけでも何か楽しみにされるんじゃないかなって思います。

◇（委員長）

関連で言うと早めにホームページ立ち上げた方がいいですよ。4月以降。それであと何日ってカウントダウンするでもいいし、子どもたちも何か動画とか作るとお金がかかるから、それは追々考えるとして、こんなものが出来ますよっていうことを、ホームページを開けるだけで若い人は見てきますから、そこでイベントの何か募集があるよみたいな。市民交流センターが正式名称であって愛称が決まるはずだから、この愛称を決めるのもイベントになると思うんですよ、それ自体。そういうことを上手く使いまわしていくことが大事だなと思います。

⇒（事務局）

さっきの動画については一応今年度予算で作成ということになっていますので、事業の進捗状況でちょっと遅れる可能性はありますが、予算組はしております。

◇（委員）

基本的な考え方に6つまであるんですが、是非とも7番目に図書館準備室を設置していただきたいということです。事業方針を3年間で取り組むためにどこが音頭を取るのかというのが凄い心配でして、図書館長さんは決議権もありませんし、それから4月から館長さんが変わられますよね、今公募をしていらっしゃるのもその方が経験者で無かったらまた図書館からの提言も遅れてくると思いますし、やっぱり主導権を握るのは教育委員会ですよ。色んなビジネス支援とか事業方針を全て3年間で、じゃあ今年はこれとこれを重点的にしよう、じゃあ2年目はこうしようという計画から実施をしたりするのを1人の担当者ではとても不可能ですので、図書館の方も含めて行政の中で司書の資格を持った方もいらっしゃいますし、図書館準備室を設置しないとあつという間に3年間が経ってしまうんじゃないかなと思います。今度新しくできる時には、やっぱり図書館の運営方針というので3年後ぐらいを見据えたような予算の計画とか貸出数の想定とか、どういう風に設置してくかっていうそういう方針も出していかないといけないと思いますので、曖昧な係ではなくてきちんとした図書館準備室を設置していただきたいと思います。

◇（小林アドバイザー）

図書館の準備を何時頃から始めるかということなんですけど、先ほど課長さんの方も2倍か3倍に利用が増えるという話をされましたが、日吉津は9倍なんです。1人当たり貸出数が2冊だったのが、今18冊ぐらいですから、もの凄い伸びで利用が増える感じですか。それに対してどうやって準備するかということなんですけど、僕はコレクションっていうか蔵書の構成ということで話をさせてもらいたいと思うんですけど、今の作られる規模の図書館が開架が10万冊で書庫が5万冊っていう具合に考えていらっしゃると思います。開架の10万冊にどういう本を並べるかということなんです。1年に10万冊買って新しい本ばかりが並んでいる図書館っていうのは決して魅力ある図書館ではなくてですね、やっぱり古くても必要なものはありますし、何年か前に出た本でも繰り返し使われる本があるわけですし、そういう本をどうやって組み合わせるかっていうことがすごく大事だと思うんです。県立図書館の話でしますと、開架20万冊です。これを5年で一巡するっていうイメージでいます。ですから年間3万冊から4万冊の新しい本を入れて、5年経ったら全部が開架の本が入れ替わるっていうようなイメージで今運営をしているんですけど、それを境港の中で考えていくとどう考えていくかっていうと、5年で考えると2万冊、2万冊を2,000円の本で買うと1年間で4,000万円の事業費が必要だということになるわけなんですけど、そこは望まないとしてもじゃあ一体何年で1サイクルが回るような形にしていくのか、もしそうやって考えていくと今1年間に8万冊本が出ているんですけど、8万冊の本から1,000冊を選ぶっていうような作業を何時からしていくのか、考えていくのかが必要になりますので、全体の蔵書計画っていいですか、毎年どれくらいの本を入れ替えていって、何年か後には図書館が全部一杯になるんだっていうようなことをある程度考えていく必要があるのかなと思います。それが今年なのか来年なのか、或いは開館の年からスタートするのかっていうことはそれぞれが考えられることだと思いますけど、そういう課題があります。1年でコレクションは決して出来ないということをお話させていただきました。

⇒（事務局）

今の市の予算ですと図書を購入する費用は大体年間600万円程度。ちょっと冊数は分からないですけど。600万くらいの予算で推移しています。さっきの図書準備室の件は市の機構改革、組織の問題になってくるので、この場では申し上げられないのかなと思います。全体の準備室も出来ていなくて、中々ちょっとハードルは高いのかなっていう風に感じています。

◇（委員長）

その通りだと思います。いずれにしても市民交流センター開館準備室は必要になりますから、それは早ければ早い方がいいかなと思います。でないですけど、片手間で

は出来ないと思いますので、特にホールと図書館の合築になりますからダブルになりますね。是非それは重要事項として考えていただければと思います。別に4月にこだわらなくてもいいと思います。年度の途中で立ち上がればいいと思います。はい、他に。開館した時に全部図書館埋まってなくてもいいと思うんです。いつも入っていてこれから揃えていくんだっていうのでいいんじゃないかな。みんなで作っていくっていうので。

⇒（事務局）

新しいところを見た時も、最初から全部揃えるということはどこも言われていませんでした。ある程度余裕を持たしてやってた方がいいですよと、特に米子の図書館の方が言われてたと思います。どこの図書館もそんな感じで言われていましたので、県立図書館の5年で1サイクル回すっていうのはちょっと今日初めて知ったんですけど、境は多分そこまでの何年で1サイクルとかいうのはないと思います。恐らくそういった計画性がない蔵書体制になっているんじゃないかっていうのがあるんで、その辺を県立図書館みたいに、多分予算的にはいかないと思いますので、色々アドバイスをいただきながらいいサイクルの仕方というのを検討していかないといけないのかなと思います。

◇（委員長）

他にございますか。よろしいでしょうか。それでは4番目です。管理運営計画（案）について、説明をお願いします。

（4）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画（案）について

○事務局から説明（別冊資料）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

これ、我々今、これまで議論してきたことが全部盛り込まれていると思います。そのまんまかどうかは別としまして。ですからこれが完成形になっていく。今日の分の修正をしていただきますので。いよいよこれがパブコメにかかります。パブコメにかかった後、いよいよ外出しになります。我々としては作った立場としての責任がありますので、是非ですね、パブコメが始まるよっていうことを口コミで広げていただいて、皆さんの意見をまた吸い上げればと思いますし、今のこの4番目の議題、管理運営計画の案について、何かご意見かご質問なりおありでしたら。

◇（委員）

4日ほど前に、私の友人からこれを是非言ってくれっということ、鳥取大学のサイエンスアカデミーが最近米子の方の図書館でされたんだそうですが、そういった設備を是非こちらの方もして欲しいということで、今見ていただいている3ページの基本方針4のところ、収集、発信というよりもやっぱり情報交換できるような、これは設備の方になると思うんですけど、そういった設備を作っていただいて、学習の機会をもっともっと広がるように、要するにテレビ会議のような、鳥大から来るのを聞くだけなんです、こちらから質問が出来ないということをおっしゃってました。私は経験ないんですけど、それを是非この会で言ってほしいということでしたので、よろしくをお願いします。

◇（委員長）

サイエンスアカデミーは私も大学でやっています、鳥取でやる場合米子でやる場合あるんですけど、その場合必ず中継をしています。ただこの中継のシステムがですね、独自のシステムですので、大学のネットワークってつまり感染しないように厳重に守られていますので、スカイプなんて簡単に使えないんですね。スカイプが使えれば1番楽なんですけど、ただそこちょっと考え方だと思うんですけど、気楽にやるっていうのも1つあるのと、大学のシステムって使い勝手が必ずしも良くないんですね。だからそこは是非テクニカルな観点から十分調査と検討していただいて、高齢者の方が行きたいけど行けないっていう方がおられますので、地元のセンターだったら行けるといっておられるから、そういう方に医学部の講座であったり、色んなものを年中やってますので、ぜひぜひキャッチできるように、ここでやる場合にはいいですけど、そうでない場合に映像だとか音がちゃんと聞こえて、資料が見えるような、そこをぜひ検討いただければと思います。これはサイエンスアカデミーに限らず色んなことに使えるような感じなので、そこは是非検討していただければと。

◇（小林アドバイザー）

サイエンスアカデミーと言えば、会場が県立図書館なものですから、県立図書館から発信したものを各市町村で受信していただいているという状況です。実は今、回線が2通りで、1つは鳥大経由でインターネット経由で受信していただくというものと、もう1つは情報ハイウェイを活用した回線というのもまだ生きていまして、そちらも使って、今2系統で発信をしております。米子とか日野とか、或いは琴浦ですね、様々な市町村で受信していただいているというのが実際のところです。経費が掛からないのはインターネットの方だと思うんですけど、これを機に考えられるかどうかっていうのは、情報ハイウェイが多分市役所まで来ていると思うんですけど、例えばこういう文化施設にこれからどうするのかっていうことは検討の材料として挙げられていただいてもいいのかなと思います。それはこの計画の中にデジタルアーカイブの

構築っていうことを挙げていらっしゃるんですけど、映像とか画像とかのやり取りをすると膨大な通信料がかかりますので、それはその情報ハイウェイを使って、この施設でも自由に見られるような環境にしとくかどうかってというのは1つの考えどころかもしれないなと思いましたが、ちょっと発言をさせていただきました。ただ工事費がかかることですので、どれくらいの費用が必要なんだということをご検討いただければと思います。

◇（委員長）

関連ですけど、中海テレビなんかは全国の災害情報を一手に米子でキャッチして全国発信していますので、そういうのも防災っていう大きな柱になるはずですから、何か連携するのがあるのかなと個人的には思っています。新しい建物でして新しい機能を持って、防災の点でも積極的なものが出来たらいいかなと思うんです。まあ防災はしょっちゅうあるわけではないでしょうから、通常はサイエンスアカデミーってそういうことで使っていきようになるかと思えます。いざっていう時はそういう使い方も出来るっていう。はい、他にございますでしょうか。よろしいですか。それではこの委員会は後1回予定されますけれども、ほぼ中身についてはこんな感じで取りまとめられつつあるということをご理解をいただければと思います。それではその他ということでも事務局の方から報告をお願いいたします。

◆次第3 その他について

- ・境港市民交流センター（仮称）高校生ワークショップの開催について
- ・第9回の検討委員会について

○事務局から説明

◇（委員長）

次回、パブコメ以降に最終回を開いて確認をしようということで、今のところ3月27日ではどうかということ以案になっておりますので、日程がまだ確定ではありませんけど、この日を1つの候補としてご記憶くださいということです。最後に委員の方々から何かございましたら。ございませんか。もし無いようでしたらこれで会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。